

マリレ情報よろず屋

平成27年11月発行第38号

第二管区海上保安本部

マリレジャー安全推進室

平成27年10月 海浜事故情報

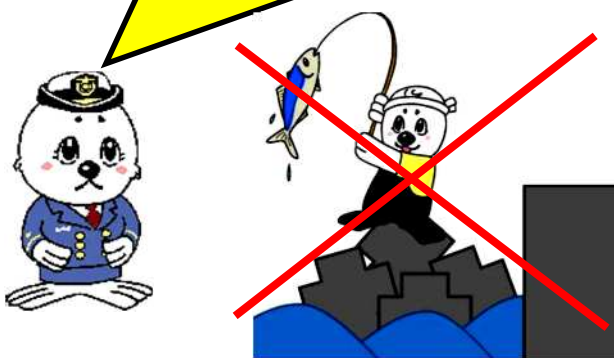
海中転落8件、負傷1件

事件事例 (負傷/八戸 消波ブロック上)

事故者は消波ブロック上で1人で釣りをしていたところ、突然の大波に足をすくわれ消波ブロックのすきまに転落しました。事故者は自力で這い上がり、付近の釣り人に救助されましたが、膝の骨を折る全治6ヶ月の重傷を負いました。



消波ブロックのすきまに転落すると救助が難しく、命に関わる重大事故に繋がるよ！



原因と対策

気象海象を把握していなかったことが原因ですが、そもそも消波ブロックや防波堤上での釣りは危険ですのでやめましょう。冬季は、気象が不安定で、太平洋側でも西寄りの風が強く吹く傾向があります。テレビや携帯電話等で最新の気象情報をチェックし、気象に不安がある場合釣りをやめることも検討しましょう。

海の安全情報

冬季の海難防止について

冬型の気圧配置 「西高東低」



冬季の典型的な気圧配置といえば、「西高東低」です。大陸からの優勢な高気圧が張り出し、日本海付近で発生した低気圧が発達しながら太平洋側に抜ける際、西寄りの強風が続きます。このため、日本海側では大時化となり、大型船でも難航する日が多くなります。太平洋側では、晴天が続きますが、西寄りの強風には注意が必要です。小型船の転覆

海難は、気象の悪化によるものが多くを占めています。海上が穏やかでも、天候が急変する場合がありますので、出港前には必ず最新の気象情報をチェックし、無理のない航海、早めの帰港を心掛けましょう。

事件事例 (海中転落/八戸 防波堤上)

事故者は、妻と二人で釣りをするため、防波堤上を先端部に向かって歩いていたところ、防波堤上に伸びたロープにつまずき海中転落しました。事故者は救命胴衣を着用しており、海面に浮いていたところを付近で港湾作業をしていた作業員3名に救助されました。



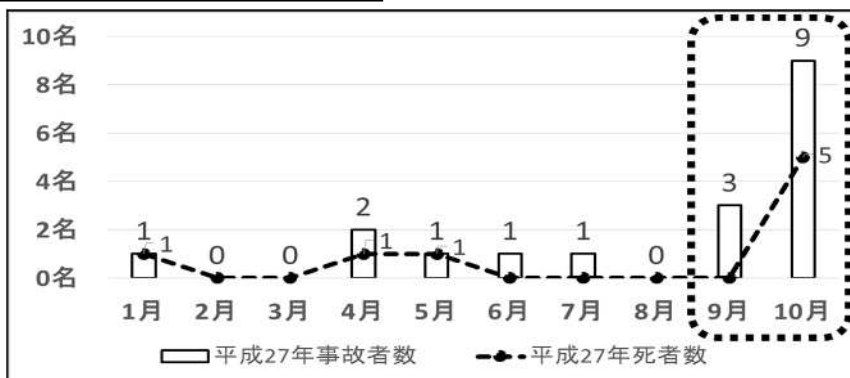
釣りをする際は、事故に備えて「自己救命策3つの基本」を確保しましょう

原因と対策

事故者の周囲への不注意が原因でした。防波堤上は一見安全に見えますが、船舶に係留するための係留止めが設置されていたり、ロープが伸びていたり、つまずきそうな突起物が多数存在します。話をしながら、また携帯を見ながら歩行していると注意力が散漫となり、誤って海中転落する危険性が高くなります。防波堤等を歩行する際は、周囲の状況や足元に注意しましょう。



釣り中の海中転落事故について



事故に備えて救命胴衣を着用しよう!



10月は海中転落が9件と多く発生しました。東北地方では、9月・10月の釣り中の事故者は12名、うち死者は5名で過去6年間で最多となりました。事故のほとんどが海中転落によるもので、また、そのほとんどが救命胴衣未着用でした。海中転落などの事故に遭った場合、救命胴衣を着用している場合としていない場合とでは、救助される確率も大きく変わってきます。万が一の事故に備え、救命胴衣の着用を励行しましょう。



マリレ情報よろず屋

~バックナンバーはこちら~

MICSスマートフォン用サイト

(沿岸域情報提供システム)



マリレ情報よろず屋は、毎月10日頃発刊しますのでご覧下さい!
パソコンの方: 「マリレ情報よろず屋」「MICS」で検索!